

CONTENTS

- 性の多様な個性を受け入れられるように
- 今年もクリニック探検隊来たる
- 私のオフタイム



VOL. 24
2012.7 発行

Muraguchi Kiyo Women's Clinic

性の多様な個性を受け入れられるように

東北 HIV コミュニケーションズ代表 小浜耕治



2007年関西レインボーパレードに参加して

人は、他人と違ったものを自分に発見すると、これはいったいなんだろう戸惑い、これでいいものかと不安になるものです。やがて、その違いを「それが自分なのだ」と受け入れ、かけがいのない個性としてとらえてゆきます。周囲にもそれを表現して、関係を築く「よすが」とするわけです。しかし、中には「こんなこと自分は受け入れられないし、周りにも知られたくない」と、自分の中に封じ込め、それがいつ表に出ないかと怖れながら、つらい思いを抱えることもあるでしょう。

性に関するることは、そうした「他人に言えない」ものになります。そもそもが、性を語る習慣のない私たちの社会では、特に思春期というものは、多くの人が戸惑いと不安を抱えます。誰もが十分に周囲とコミュニケーションを取って、自分自身の性を受け入れられてゆくわけではありません。自分の性を受け入れられないと、「人に見せていい自分」と「人には隠さなくてはいけない自分」に引き裂かれることになります。こうなると、「自分ってなに?」ということでの混乱が生じて、自分が本当に望んでいることがわからなくなり、その時々の感情や関係性に流されがちになります。性に関する様々なリスクにもさらされやすくなり、そして傷ついて、隠さなくてはならない部分が増えてしまいます。

からだの性と心の性が一致しないトランスジェンダー、その中でもからだの性に違和感があり治療を望む性同一性障害（GID）や、自分と同じ性を好きになるゲイ・レズビアンなど同性愛、好きになる相手の性別を問わない・あるいはどちらの性別も好きになる両性愛（バイセクシュアル）など、性的少数者（LGBTともいいます＊注）がいます。20人に1人はそのような「少数者」であるといわれ、学校のクラスに2人くらいはいる計算になります。こうした人はGIDなど医療につながる人だけでなく、日常的な場ですぐ隣りで生活しているのです。これら性的少数者の多くにとって、思春期は前述した「見せていい自分と隠さなくてはいけない自分に引き裂かれること」が始まる時期にあたります。私も性的少数者の一人ですが、周囲との違いを「それが自分なのだ」と受け入れられたのは、30歳も目前のことでした。

性について安心して語ることができる場があれば、もしかしたら、こんなに時間がかかるなくて済んだかもしれません。今では性的少数者同士で語る場もありますが、さらに日常的に友人や学校職場で、性について語れる環境があれば、「そのまんまの自分」を出して引き裂かれることのない生活を歩むことができます。これは、性的少数者だけでなく、性についての個性を自分の中に封じてしまつたすべての人に言えることだと思います。

「きょくり」は性的少数者も含めて多くの人の多様な性の個性を受け入れてくれている場です。ここに来られる人たちも、ぜひ自分の周りに安心して性を語れる場を作ってください。そして、たとえ医療につながらなくても、一人でも多くの人が性の多様な個性を受け入れられるようになれば、こんな嬉しいことはありません。

* 注 LGBT Lesbian Gay Bisexuality Transgender の頭文字

小浜耕治：1992年からHIVやセクシュアリティに関する活動を始め、93年の東北HIVコミュニケーションズの設立に関わる。2003年から同代表。仙台市エイズ性感染症対策推進協議会委員も務める。04年に男性同性間感染対策のグループ『やろっこ』を立ち上げ、厚生労働省エイズ対策研究事業・男性同性間感染対策とその評価に関する研究協力者として活動。04年にみやぎいのちと人権リソースセンターを設立し共同代表に。広く多分野の活動とネットワークを組み、重層的・複合的な人権問題の解決を目指す。

今年も‘クリニック探検隊’來たる

～セクシュアリティと人権を考える会との交流～

患者情報管理 柴田泰子



さる 6 月 20 日、「セクシュアリティと人権を考える会」との交流がありました。この会は宮城学院女子大学の浅野富美枝教授（生活デザイン学科家族社会学専門）が代表を務め、「セクシュアリティと人権について共に学びあい語り合う場をつくるための様々な活動を行うことを目的として」、2007 年に発足したそうです。「女性クリニックを見学したい」というご要望を受け 2009 年から始まったこの交流会は、今年で 4 回目になりました。今回は浅野先生のゼミ生や講義受講生などが合流し 28 名の参加者がクリニックに集いました。

浅野先生から、会の紹介と「学外で学ぶ必要性」などについてお話しいただきました。次いで院長が「『性の健康』を創る医療現場からの試み」というテーマで、「身近なことで性の健康って?」「リプロダクティブ・ヘルス／ライツをめぐる世界の流れと今日的課題」「クリニックで取り組んでいること」「クリニックにおける人工妊娠中絶と性感染症の現状」などについて、具体的なケースを盛り込みながら話をしました。

「中絶件数がこれほど減少しているとは思わなかった」「ピルって太らないの」「ピルは飲んだらすぐ避妊できるの」「〇〇っていう性情報を発信しているサイトは信用できるか」「友人が避妊に失敗した」などの感想や疑問・不安が出されました。ピルの服用をパートナーに反対された場合はどうするかという問いかけに、「在学中の妊娠は困るし、ピルを飲むことが必要であれば、相手に伝えたとしても、自分の意志で決めます」ときっぱり答えた学生があり、さすが浅野先生の教え子さんだなあー、と感心しました。女性の人権、性の自己決定権を考えた時、「ピル服用を相手に伝えなければいけない」というものではありません。

最後にクリニック内を案内し、産婦人科はどのようなところなのかを見ていただきましたが、初めて産婦人科に来たという学生さんも少なくなく、「内診台に上がらせてもらっちゃった」「子宮がん検診で超痛そうじゃない。怖いよお」「手術室ってこうなってるんだ」など、興味津々という様子が可愛らしく爽やかでした。敷居が高いと思われがちな産婦人科ですが、何か困ったことがあれば一人で悩まず、相談・受診していただきたいので、交流会がそのきっかけになれば嬉しく思います。



私のオフタイム～愛犬チロルとの日々～

助産師 宮本由美子



我が家にはチワワの「チロル」がいます。現在 3 歳で、人間でいうと 28 歳になります。7 月のちょうど今頃、生後 2 か月で売られていきました。夏物のラグを買うために入った DIY センター・・・。ガラス越しに「一人ぼっちなの?」「ママ恋しくない?」「十分ママのおっぱいを飲んでからここに来たのかな?」などの思いに溢れて、家族の一員になりました。それからは、離乳食、排泄トレーニング、散歩・・・と家族で育児をしました。

時を経て、子どもたちは思春期になり、自然に夫とチロルの 3 人で過ごすことが多くなりました。ゆっくりとその時間を楽しみたいと思っています。



8月の休診

- 8月 3日(金)～4日(土)は第 12 回アジア・オセアニア性科学学会参加のため休診となります
- 8月 14日(火)～16(木)はお盆休みとなりますので、ご了承ください。

編集後記

7 月、紫陽花の綺麗な季節ですね。本格的な夏に向かい、電力不足を理由に政府は大飯原発の再稼働を決定しました。首相官邸前では再稼働反対を唱え 4 万人が集まりましたが、日本のメディアはこのニュースをあまり大きく取り上げません。

日本のあり方を見直し向き合う大きなチャンスを逃してしまうかもしれない・・・と焦燥感にかられます。

